

風土記の丘の花だより²⁹¹

今、そしてこれから見られる植物(2025年10月4日)

やっと秋の風が吹き始めましたが、まだ昼間は汗ばみまね。記録づくめの猛暑でしたが、何とか落ち着いてくれたみたいです。その暑さのせいでしょうか、フジバカマの葉がほとんど枯れてしまい花も例年になく少ないです。



池沿いの道でフヨウの花が咲いています。とても大きなピンク色の花です。一日花ですが、次から次へと咲くので、長い間花を見ることができます。でも、よく見ると緑色の毛虫がいっぱい付いています。これはフタトガリアオイガというガの幼虫です。ムクゲなどにも付く毛虫です。葉は多少虫食いになりますが、毒もありませんので、きれいな花と一緒に鑑賞してください。(でも、見ようによっては気持ち悪いですね。)



背が高いため、秋風にユラユラ揺れてアキノノゲシの花が咲いています。春にはタンポポを大きくしたようなハルノノゲシが咲きますが、アキの方は、なんとなく涼しげな花です。色も真っ黄色ではなく、とても淡い黄色で、今の季節にふさわしい色合いです。葉は大きく深く切れ込んでいますが、中にはまっすぐでシュッとした葉のものがあ、ホソバノアキノノゲシと呼ばれることがあります。花を見かけたら、ついでに葉の様子も観察してみてください。



万葉植物園でオケラの花が咲き始めています。背が高く、支柱をしないと倒れてしまいそうな花です。倒れている花を戻してやろうとすると、鋭い刺でチクっとするかもしれません。気を付けてください。この花は万葉植物ですが、万葉集には3首の歌しか残っていません。その中でもよく知られているのがこの歌です。「恋しけば 袖をも振らむ 武蔵野の うけら(オケラの古名)が花の 色に出(づ)なゆめ」オケラの前で声に出して歌ってみませんか？



ツルボの花が咲いています。薄ピンクというか、薄紫というか、どちらにしても爽やかな色の花です。これまではユリ科でしたが、この頃はキジカクシ科ということになっています。漢字では「蔓穂」と書くようですが、語源はよくわかりません。「穂」は花の付き方からだと分かりますが、どの辺が「蔓」なのでしょうね。

なお次の292号の発行は、11日土曜日の午後からになりますので、ご了承ください。

松下